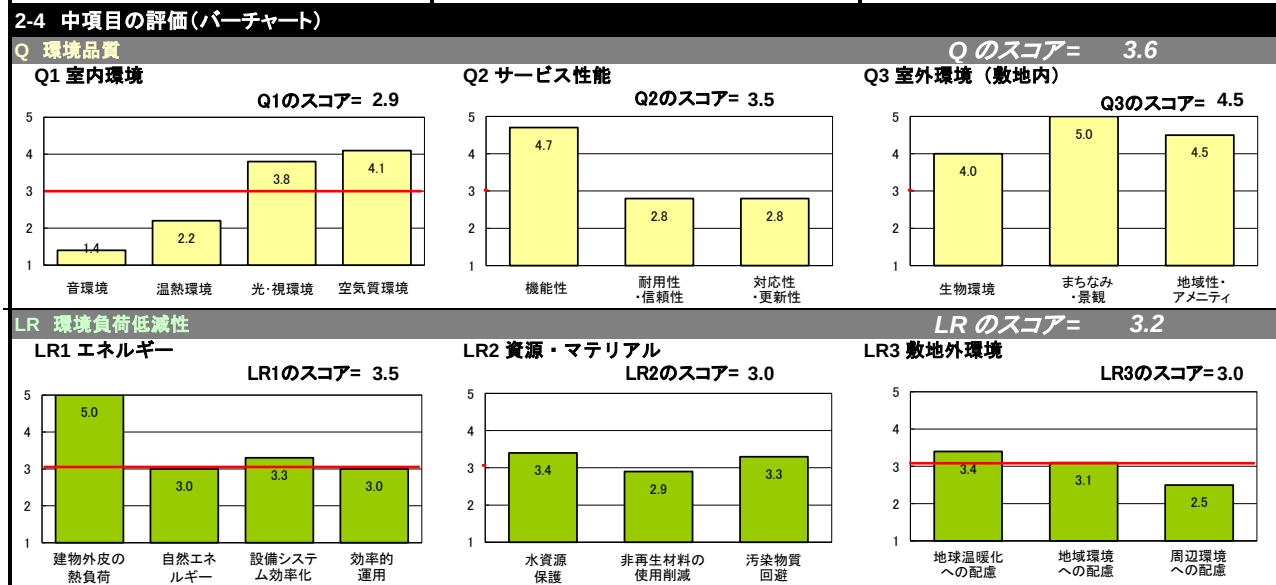
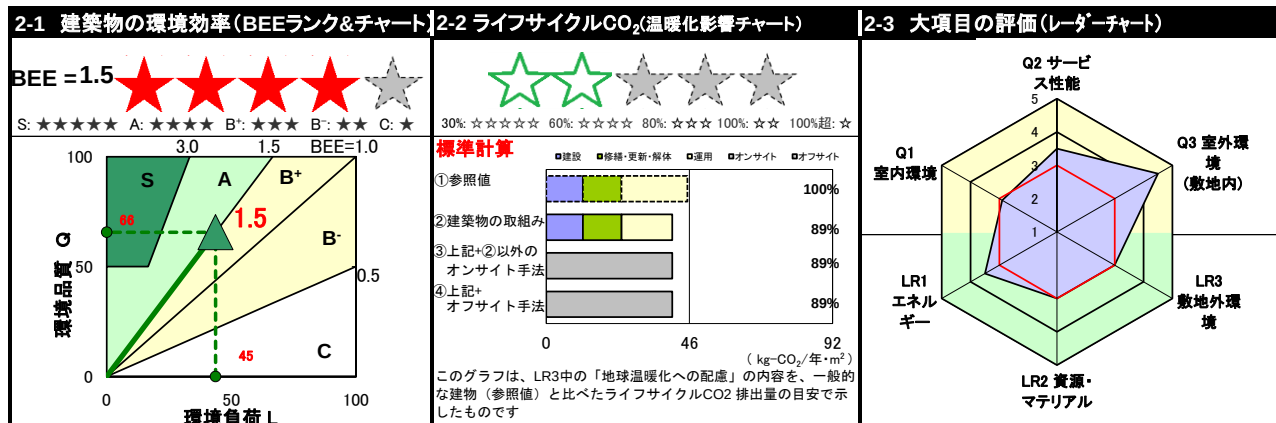


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2014 ■使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	天白特別支援学校	階数	地上3F
建設地	名古屋市天白区植田山二丁目 101番の一部及び102番の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2024年2月15日
敷地面積	17,922 m ²	作成者	
建築面積	2,582 m ²	確認日	
延床面積	5,515 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	快適で健康な利用のために明るさの確保に努め、空気の汚染に配慮した材料を用いた。	その他 特になし
Q1 室内環境	照明計画では、CRを適切な照度で設計した。また、昼光率を大きくするような建具を選択した。仕上げ材料にはF☆☆☆☆の材料のみを用いた。自然換気性能に配慮し、有効開口面積を大きくするよう建具を選択した。	Q2 サービス性能 空調・給排水管緒更新間隔が長くなるように建材を選択した。
Q2 サービス性能		Q3 室外環境(敷地内) 特になし
Q3 室外環境(敷地内)		
LR1 エネルギー	設備システムの高効率化と建物外皮の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水や雨水利用など水資源保護を配慮した。
LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境 CO ₂ 排出量を小さくし、地球温暖化に配慮した。
LR3 敷地外環境		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

天白特別支援学校

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				4.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 4.1



3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。